

令和5年度学校評価報告書

1 本年度の重点目標

(1) 基礎学力の定着と系列学習の充実 (2) 希望進路達成に導くキャリア教育 (3) 節度ある学校生活の確立と主体的に行動できる生徒の育成 (4) 地域貢献に結びつく連携事業や校外での体験学習の充実 (5) 生徒の安全確保と安心できる環境整備 (6) 信頼される学校と風通しのよい職場
--

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している      B おおよそ達成している      C あまり達成していない      D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習	① 生徒の実態に応じた評価の工夫	A	昨年度より始まった観点別評価は、スムーズに進行できた。引き続き、評価方法について課題を精査し改善に取り組んでいく。	A	A
	② 基礎・基本の定着とそれを土台にした学力の向上	B	昨年より落ち着いて授業を実施できた。基礎学力の向上という点は次年度以降も課題として検討し、取り組んでいく。	B	B
	③ 校内ネットワーク、支援システム、みやぎSWAN等の適切な管理及び捜査方法の周知徹底	B	今年度はICT支援員の派遣があり、校内研修や授業補助をいただき、ICTの活用状況が改善した。引き続き、情報セキュリティ対策を徹底しながらICTの活用を進めていく。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	情報セキュリティーについては、専門家の指示に従うこと。生徒の基礎学力の向上に向けて取り組んで欲しい。				
生徒	① 話を聞く態度	B	全校集会等で生徒指導部、担任や学年で全体的に話を聞く姿勢を整えた。今後も継続して行いたい。	B	B
	② 服装・頭髪・マナーアップ	B	長期休業明けに学年ごと頭髪・服装検査を実施した。今後も保護者と協力を得ながら指導を行いたい。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	概ねの生徒は問題ないが、一部の生徒の服装や頭髪の改善を望む。学校の品位を失なわれないようにして欲しい。				
進路	① 自己の適性を考え、将来の進路を見つめる進路意識の涵養を目指す為の進路学習の企画・実践	B	3年次を中心に年間指導の計画・内容にそって生徒の指導にあたった。例年、3学期になっても進路先が決まらない生徒もいるので、各種ガイダンスや説明会、面談等の中身を強化し、低学年からの進路指導の充実を図りたい。	B	B
	② 2年次のインターンシップの実施	B	今年度は2日間、大きなトラブルもなく滞りなく計画的に実施できた。担当教員の事前・事後指導の作業の負担も大きく、もっと効率的、効果的に実施できるように模索したい。次年度も2日間の内容で実施予定である。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	インターンシップは重要なので1年次の早い時期から進路意識を高めるべき。				
企画	① 3年間を見据えた指導をふまえ、主体性を重視し、生徒が自己を振り返りながら進路実現のための実力を養成できるような指導計画を立案する。	C	現在の年間計画では産社・総探の内容が「職業」に関することに偏っているため、振り返りをして、自分で成長や変化を感じることが難しい。自己の興味関心の方向性を探って課題を設定し、探究を通じて実力を養成できるように、全体的に計画を見直す。	C	C
	② 交流ひろば販売所において、生徒の主体性を重視した運営をめざす。また、学習活動の成果を発表する場として有効に活用し、生徒の学習意欲向上、地域へのPRを促す。	B	学習成果の発表の場として美術作品の展示など新しい試みができた。作品を見てもらったり、購入したものを車まで運んで感謝されたりすることは主体性の向上につながる体験であるのでこうした活動を積み重ねていきたい、また、とらまい運営への生徒の関わりをより広げられるようにしていきたい。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	石巻地区には、商業高校や工業高校・水産高校もあるので連携を図るべきではないか。				
保健	① 清掃活動の徹底	B	学級減に伴い、職員数も減少している現状で工夫しながら清掃分担区を作成している。次年度もこの状況が続くので、更に工夫したい。	B	B
	② 自己健康管理の意識を高める	B	新型コロナウイルスが5類へ移行したが、引き続き個々で対応できるように各教室に設置しているCO <sub>2</sub> モニターも活用しながら健康を自己管理しようとする意識を高めさせたい。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	感染症の対応が大変だったと思われまます。引き続き気を引き締めて欲しい。				
総務	① 計画と準備に万全を期す。	B	コロナ禍前の形式に少しずつ戻しながら、諸行事を滞りなく実施できた。今後は計画のための事前準備により注意を払いたい。	B	B
	② 災害に対する防災教育の強化	B	災害に応じた避難訓練を実施した。生徒の学校評価では高評価を得ているが、さらに教職員、保護者の理解を深めていく必要がある。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	創立100周年記念式典に向けてしっかりと準備を進めて欲しい。				
農場	① 学校農場の効率的な運用と安全衛生管理の徹底に努める	B	指導者の適切な指導の下、怪我や機械操作ミスなど大きな事故はなかった。今後も職員の協力体制でしっかり指導をしていきたい。	B	B
	② 総合学科としての農場整備に努める	C	令和6年度の系列専攻生は減少傾向にあり、それに伴い生産作物、加工品の種類や数量、また、学習教材の精選をしていかなければならない。対策としては、他方面と協力して系列生徒数を増やす工夫を考えていきたい。また、農場を通しての交流活動は継続して取り組み、地域の交流の場学校農場を確立していきたい。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	伝統野菜の復活と新規野菜・果物を見ては如何か。農業関連施設を地域に活用して貰う事もあって良いのではないか。				

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 総合学科としての魅力ある学校づくり	産業社会と人間（1年次）総合的探究の時間（2・3年次）の学習内容の見直しを行う。
② 基礎学力の低下に伴う対応について	基礎学力が身に付いていない生徒の入学が増え、小中学校からの学び直しの必要性が高まっている。学習用タブレット端末が整備されているので、学習系教材ソフトを利用して基礎学力の向上させる。
③ いじめ・不登校への問題について	学校評価から、生徒と職員のいじめに関する満足度の乖離度が大きかった。現在年5回（生徒3回・保護者2回）実施している学校生活アンケートの調査回数を増やすと共に、学校生活適応支援員やスクールカウンセラー・保健室など、生徒が気軽に相談できる体制を示すと共に早期に対応できる組織化を図る。